

東日本大地震：宮城県への災害支援から帰着しました！

3月19日(土)正午、みやぎ生協へ物資支援とともに組合員へのお見舞い活動の支援を行ってきた、コープデリ宅配事業部の丸山地区長と高橋課長の2人が、篠ノ井本部に帰着しました。

上田専務、北林常務ほか職員が出迎え、2人から現地の状況も伝えていただきました。

高速道路などは緊急車両のみが通行していたそうで、止められることもなく比較的スムーズに行けたが、現地の一般道路の段差はものすごくあったそうです。

17日の雪が積もりだした18時ごろ、みやぎ生協の本部に到着し、みやぎ生協の齋藤昭子理事長から丁寧なお礼の言葉をいただいたとのこと。2人はその日トラックの運転席と荷台に分かれて就寝。余震が何度もあってトラックが揺れたり、非常に寒かったそうです。

翌日は、みやぎ生協本部に併設されている宅配センターで積荷をいったん降ろし、他からの救援物資を合わせ何台かの宅配車両への積み込み作業を行いました。続いて丸山地区長と高橋課長は、別々に南支所の方とトラックに同乗しお見舞い活動へ出発。丸山地区長は、お見舞いと配達再開へ向けたお詫び・説明を行うため、支援物資のパンなどを持って行けるところまで行って20箇所を訪問したことを報告されました。パン2個でも涙を流して喜んでいただけの状況だったとのことでした。

高橋課長は、比較的被害の少なかった地域のお見舞い活動を行った後、津波被害の最先端地域まで行った時に町がなかったこと、海から4キロ内陸に船が乗り上げられている状況等について話されました。

みやぎ生協は、本部の隣にある仙台市泉区の文化会館に仮設本部を設置しています。各地からの支援物資を積んだ10tトラックが、本部併設のセンターを集積地として、どんどん入ってきています。ここで仕分けされた支援物資を、みやぎ生協の各支所へ配送するのですが、その燃料がない状態が続いており大変な状況となっているとのことでした。2人とも、現地の方々のきつい状況がずっと続くことを考えると、支援の継続が不可欠との感想を話されました。本当に、お疲れ様でした。



長野県北部地震：孤立していた秋山郷へ商品を届けました

3月20日(日)コープデリ中野センターでは、落石で通行止めだった国道405号が開通したのを受けて、配達トラック2台で栄村秋山郷へ商品をお届けしました。

19日夕方5時に国道が開通したとの報を受け、孤立していた集落の組合員へ商品を届けるため、センターにて預かっていた商品を2台のトラックに積み込み、20日午前9時に出発しました。

この道路は残雪も多く、夕方5時から夜間閉鎖されるため、安全と時間を気にしながらの配達になりました。

デリ宅配事業部の中條誠部長、丸山辰明地区長、中野センター松沢利幸センター長が、秋山郷へ向かう中野センターの吉沢剛副センター長、新元義博さん、デリ宅配事業部の栗林学課長、瀧沢文夫課長とともに商品の荷積み作業を行い、車両の点検を行いました。

午前9時に、4人が2台のトラックに分乗し出発しました。



東日本大地震：みやぎ生協へ災害支援の第2陣が出発しました

コープながの災害対策本部(本部長：上田 均 専務)は、日本生協連、コープネット事業連合と連携して、みやぎ生協への支援として第2陣の派遣を決定しました。

3月21日(月)午前8時20分、店舗事業部の召田洋一課長と共済センターの谷哲一課長の2人が救援物資輸送車両(1.5t)で宮城県に向け篠ノ井本部を出発しました。途中、コープネット須坂グロサリー集品センターで、灯油用ポリタンク20缶、その他食料品等を積載しました。



2人は、仙台市において、みやぎ生協の店舗の品出しや物流センターの支援を3月25日(金)まで行います。

本部では、古田好男理事長をはじめ職員が、現地で頑張る皆様と召田課長、谷課長の6日間の支援活動の無事を祈って送り出しました。